

「高校風土記」1976（昭和51）年新聞連載コピー（1/4）

相馬市在住の佐藤史生氏（昭和37年卒・高14回）から、新聞の切り抜き記事、「高校風土記」を紹介された。全24回連載のうち17回分が保管されていた。その内容から1976年、また、切り抜き裏面のスポーツ覧から毎日新聞の記事と推察される。特に、相中時代からの先輩諸氏の様子、地域社会での活躍が読み取れる。時が経つほど貴重な記録になると考え、トピックスとして取り上げた。（高13回 村山正之）

### 創立のころ（上）

相馬市は、馬場のオザレも向学を志して高知した。その一人であった二回生の佐藤史生（高14）は、相馬市立高等学校の創立に力を入れた。佐藤史生は、相馬市立高等学校の創立に力を入れた。佐藤史生は、相馬市立高等学校の創立に力を入れた。佐藤史生は、相馬市立高等学校の創立に力を入れた。

明徳三十二年（一九五七年）五月七日、馬場のオザレに、机や脚付もなにもないラッパが鳴った。第一回入学式が、相馬市立高等学校の創立に力を入れた。佐藤史生は、相馬市立高等学校の創立に力を入れた。佐藤史生は、相馬市立高等学校の創立に力を入れた。

相馬市立高等学校の創立に力を入れた。佐藤史生は、相馬市立高等学校の創立に力を入れた。佐藤史生は、相馬市立高等学校の創立に力を入れた。佐藤史生は、相馬市立高等学校の創立に力を入れた。

相馬市立高等学校の創立に力を入れた。佐藤史生は、相馬市立高等学校の創立に力を入れた。佐藤史生は、相馬市立高等学校の創立に力を入れた。佐藤史生は、相馬市立高等学校の創立に力を入れた。

### 百六十二人が入学



仮校舎の中村尋常小学校と1回生—相高提供

### 校歌と校旗

「馬場の名、重（故人）は相馬新聞に語らるるに負へる、春の若しんをいへる。」

相中に入校した佐藤史生は、校歌の作詞に力を入れた。佐藤史生は、相馬市立高等学校の創立に力を入れた。佐藤史生は、相馬市立高等学校の創立に力を入れた。佐藤史生は、相馬市立高等学校の創立に力を入れた。

相馬市立高等学校の創立に力を入れた。佐藤史生は、相馬市立高等学校の創立に力を入れた。佐藤史生は、相馬市立高等学校の創立に力を入れた。佐藤史生は、相馬市立高等学校の創立に力を入れた。

### 堂々とした歌と旗



特別法の相高校歌校歌を作詞した成瀬新太郎先生



# 高校風土記

〈216〉

相馬

題字は安富堂相馬市長  
(26回・昭和3年春)

## 歴代校長

県下の名門さたやみとなった。「排斥が美  
「相馬」の七十  
八年の歴には  
徳のいたすことだ」と新  
伝統樹立、ある  
妻三男(六十一)元相馬教諭  
いは難得に全方  
八年四月と最も長腰を過  
えたのが九代目の千秋、小柄で  
長を足跡があ  
可をロバのように立て怪身を説  
初土百を開いた初代、佐藤慶  
があり生徒は「テムニー」  
次、二代目の木村延、次いで重  
(煙突)の異名をつけ、「ホ  
野建道、広江万次郎、多田綱  
一、千秋、三郎、長谷川清三、大  
今村武男、羽野部千代八、浅水  
成吉郎、渡部三郎、吉田佐  
宮本行、佐藤広治、鈴木久  
義、小池元吉、佐々木一、津  
田、半沢鶴、持藤泰、富田  
重雄、山本政二郎、高橋哲夫  
一と二十六人だ。い  
本校はいろいろを面、「県下  
一連の難しごと」とい  
に生徒から反感をかう一尋も  
われ、校長の在職は平均三  
年。その中で七年以上定ると  
めたのは清川、千秋、持藤の三  
人。ツメエリを著こなし、スマ  
ートで知られた八代目清川は  
「教師、長上、対シ校分ハ停  
止敬礼、校高四ニ於テハ会釈セ  
シムルコト」と敬礼法を教育方  
針に定め、礼節を重たした。  
その清川が「飛火油漬の泊ま  
り」で若者受け、排斥運動の  
声が出たという話がある。発  
火油漬は年一度泊まりがけで行  
う重要教職、行き先の同級生が  
送迎をあげて清川を歓迎したの  
が事の起ころいやくも教育  
の任にあるものが若者を受け  
願ふなほしからんと二部の  
(敬称略)

次回は20日掲載

## 七年以上在職は三人



名校長といわれた  
八代 清川一郎



卒業生で初の校長  
になった持藤 泰



「テムニー」  
と親しまれた  
九代 千秋穂三郎

# 高校風土記

(217)

相馬

題字は安富堂相馬市長  
(26回・昭和3年春)

## 思い出の先生(上)

卒業生初の  
て母校の教務に  
立ったのが一回  
生の高野三郎  
(國語)明義  
六三、昭和十四  
十五に間にた  
って後輩の指導  
に情熱を傾け  
た。独立委員  
資格認定を成  
し努力家、副厚な先生で、生  
徒は「クレーン、タボ」  
の愛称で親まれ、後輩のよき  
模範となつた。  
相馬(六三)は相馬教  
員は「黒校に書いた字が毛筆の  
ようで白字の字は墨先い  
ほろまかった。思いやりがあ  
って勝敗のを起した師の一入  
だ」と述懐。小野田忠助(六  
三)は「卒業前副理事長は一生  
徒思いで生む。五年にな  
ると愛もじが直後になる」  
となく同様に述す。みんな  
信頼しきつていじとより返  
る。  
高野には暖かいところがあ  
った。第一次世界大戦で語学し  
たドイツの語学雑誌「エムエム」  
の映画を見たに学校の「許  
し」を贈るとホスターを教室  
に張りつけ、デモストレン  
ジョン、直譯者であることがバ  
ルビに輝びつけられたという羽  
栗幸子(昭三)は「相馬信用組合  
理事長は、いや先生の話を  
お高教には聖堂の私まいつ  
た。二階間も聞かされた。さら  
も神妙に敬を演じたのをして  
謝ったことがあつた」としてし  
心。  
高野と同じく、中中のまど  
いわれ先生は成田三千郎(勉  
三郎)と相馬三郎(勉三郎)ら  
二人とも同窓初期の在職本  
校に誇りをつけた。  
成田は「相馬、高野」との

次回は1日掲載

## 46年間母校の教師



アダ名がク  
ラゲの  
高野 三郎



生徒思いだった  
菊池伊三郎



英談を獲した  
成田三千郎